学 校 法 人　 高 田 学 苑

中　長　期　計　画

＜　令和４年度　～　令和８年度　＞



【　高田学苑　中長期計画　目次　】

○　学校法人　高田学苑	1.組織・運営体制　／　2.財務　／　3.施設・設備	・・・　２～５
○　短期大学全体	1.全学的中長期目標	・・・　６～７
○　子ども学科	1.教育　／　2.研究　／　3.社会連携・社会貢献　／　4.その他	・・・　８～９
○　キャリア育成学科・オフィスワークコース	1.教育　／　2.研究　／　3.社会連携・社会貢献	・・・　１０～１１
○　キャリア育成学科・介護福祉コース	1.教育　／　2.研究	・・・　１２
○　地域連携センター	1.仏教教育研究センター　／　2.育児文化研究センター 3.キャリア研究センター　／　4.介護福祉研究センター	・・・　１３～１７
○　短期大学事務局	1.総務課　／　2.教務課　／　3.学生課　／　4.入試広報課　／　5.図書館	・・・　１８～２３
○　中・高等学校	1.教育　／　2.社会連携・社会貢献　／　3.その他	・・・　２４～２９

学校法人　高田学苑

1　組織・運営体制

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	経営基盤とガバナンス強化	迅速かつ適切な意思決定の為の体制強化を進め、重要な経営計画を着実に遂行するため、ガバナンス体制の強化を推進する。	①私立学校法等関係法令の改正に対応し、理事・評議員・監事の役割・機能を規程に明記し、役割・権限・責任、職務の分離や権限委譲を明確化する。 ②理事会への議決事項・報告事項の明確化を行い、ガバナンスの強化を図る。 ③監事監査規程及び監査計画の策定を行う。 ④監事・監査法人・内部監査室の相互支援体制の強化及び監事監査の支援を行う。	役割・権限・責任の明確化 ガバナンス強化の推進 規程策定　監査計画の策定 三様監査の相互支援充実
2	内部統制の充実と強化	学校法人という公共性を鑑みて、公正かつ有効な運営を目指し内部統制の充実を図るため、下記の４項目を積極的に強化することで自主的な管理体制の確立を図る。 （１）業務の有効性及び効率性 （２）財務報告の信頼性 （３）事業活動に関わる法令等の遵守 （４）資産の保全	①法人の目標達成に影響を与える事象について分析及び評価し、適切な対応を行うことのできる体制整備の推進。 ②法人全体の内部統制に関する基本方針の制定及び規程並びに業務プロセスの見直しを図る。 ③監事・内部監査委員等のモニタリングを多く設け、不正・過失・無駄等を発見・防止し、業務における正当性と会計記録における真実性の確保を図る。 ④資産の取得、使用及び処分が正当な手続及び承認のもとに行われるよう、資産の保全を図る。	内部統制体制の整備並びに業務プロセスの見直し モニタリングの充実 資産保全の推進
3	情報公表・発信の推進	公共性の高い法人として説明責任を果たし、ステークホルダーからの理解と協力を得られる仕組みを確保する。	①教育成果や短期大学の教育の質に関する情報の公表に関して、関係法令を遵守する。 ②情報公表における、HPからのアクセスのしやすさ・見やすさの向上を図る。 ③法人全体としての事業計画・経営状況における公表を行うとともに、計画に基づく進捗状況や取組成果の明確化を図る。	情報公表の充実 進捗・取組成果の状況公表

1　組織・運営体制

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
4	危機管理体制の整備強化	大規模自然災害、パンデミック、人為的災害・障害等の脅威や危機事象に対して、それらを未然に防ぐとともに、発生時には迅速かつ適切に対応し、早急な復旧・終息に向けて、引き続き危機管理・コンプライアンスの強化に取り組む。	①災害や新型コロナウイルス感染症、法人並びに法人が設置する学校に関連する事件・事故等の予期せぬ事態に対して、危機管理体制の充実を図る。 ②防災訓練の計画・実施・検証や災害マニュアルの更新及び防災用品等の継続的な見直しを行う。 ③自治体・地域団体・その他諸機関との協力体制の推進を図る。 ④情報セキュリティ体制及び個人情報漏洩防止として、規程等に基づき定期的に検証し、研修の実施等により教職員の意識向上を図る。 ⑤事故等の把握や安全・環境に対する法的規則、その他経営環境やリスク要因への対応体制を構築し、リスク管理意識の向上を図る。	危機管理体制の継続的な見直し 防災訓練の計画・実施・検証 防災用品の調査・検討 → 購入・更新 協力体制の継続と拡充 情報セキュリティ体制の見直し
5	職場環境の整備・改善の強化	働き方改革に伴う教職員の労働管理体制や福利厚生の充実、高年齢者の雇用安定化に伴う労働環境の整備に努める。また、年々多様化するハラスメントへの抑止体制や教職員の資質向上に伴うFD・SD研修の充実を図る。	①教職員の出退勤時刻の管理を行い、長時間労働の抑制を図ることにより教職員の意識改革を推進する。 ②法令に基づく勤務規則等の継続的な整備を推進する。 ③健康診断・ストレスチェック・予防接種等を充実し、教職員の健康管理体制の推進を図る。 ④６０歳定年制度の段階的な見直しを行う。 ⑤ハラスメント対策委員会・相談員によるハラスメント防止対策の強化を継続的に行い、学内研修等の充実を図る。 ⑥FD・SDの取組計画の策定と研修に基づく人材育成の推進を図る。	労働時間の把握・管理 雇用・勤務条件に関する規程の継続的な整備 福利厚生の拡充 ハラスメント防止体制の充実 ＦＤ・ＳＤ計画の策定・実施

2　財務

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	財政基盤の安定化	安定的な収入を確保するため１８歳未満の人口推移や入学者数を踏まえ、規模の適正化を図り、支出については、効率的な経費配分と無駄な支出の抑制を進めることで財務比率の適正化を図る。	①中学・高校・短大進学者数の推移を踏まえ、規模適正化の継続的な検討を行う。短大については、改組等見直しの適切な時期も含め毎年確認を行う。 ②各部門及び全体を通しての予算編成の検証、見直しを行い適正な予算配分に努める。 ③補助金を活用した施設の長寿命化のための増改築・改修計画（毎年継続）を立案・実施する。 ④教員の採用計画、事務組織体制の見直しを行い、継続的に人件費の効率化に努める。 ⑤経営資源の最適化により資産効率の向上を図るため、資産の使用状況を継続的に把握・分析し、効率化を図る等のファシリティマネジメントを推進する。	進学者数推移調査と規模適正化の検討 毎年度の予算検証・見直し 補助金獲得の強化と連動する改修計画の立案・実施 人件費の適正化 施設設備の管理推進
2	資金計画	施設設備計画と連動した資金計画を策定する。	①大規模な修繕・建替計画が策定された場合、それに対応する資金計画（２号基本金）を検討・実施する。 ②計画的な建替更新や中長期的な修繕に備え、特定資産への積立てを行う。 ③新規計画の発生時は、別途資金計画を見直す。	大規模施設整備と連動した資金計画の策定 特定資産への積立 新事業にかかる資金計画の策定

3　施設・設備

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ（令和４年度／令和５年度／令和６年度／令和７年度／令和８年度）
1	中長期修繕計画に基づく計画的な修繕の実施	老朽化や法令義務による改修事項について調査を行い、修繕内容及び費用を明確にした「中長期修繕計画」を策定・実施することで予防保全に努める。	①経年劣化に伴う定期的な修繕や法令に定められた修繕等を算出し、中長期修繕計画（当初案）を策定する。 ②策定した中長期修繕計画に基づき、予算措置の実現を図る。 ③財務状況を考慮し、具体的な修繕計画を策定する。	中長期修繕計画の策定 計画に基づく予算措置 具体的計画の策定
2	時代の要請や社会のニーズ等に対応した施設整備の拡充	加速する温暖化やウィズコロナを見据え、空調設備やＩＣＴ機器ならびに情報インフラの整備拡充を推進し、安全で安心な学修環境を確保することで、教育・研究活動の最適化に向けた整備・拡充を年度毎に精査して進める。	①整備に伴うヒアリング及び計画立案を行う。 ②計画案に基づく設計・整備案及びスケジュール等調整を行う。 ③財政面を勘案し予算調整を行い、施設設備整備計画を策定する。	ヒアリング・計画立案の継続的実施 計画案に基づく実施内容の精査及びスケジュール調整 具体的計画案の策定及び予算措置の実現
3	既存施設の建替計画の策定及び実施	老朽化等に伴う校舎の建替計画を策定及び実施する。	①学苑全体のグランドデザインと耐用年数に基づき、建替優先順位を作成する。 ②優先順位に基づいて建替計画案を作成し、財政・期間等の調整を行う。 ③財政状況等を勘案したうえで、具体的な建替計画を策定し、実施に向け調整を図る。	優先順位の作成 計画案の作成及び財政・期間の精査 具体的計画の策定・実施

短期大学全体

1　全学的中長期目標

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	建学の精神の具現化・実践とその涵養	建学の精神の思想的背景である親鸞聖人や釈尊の生涯とその教えに触れることは、学生が人生を生き抜く上での知恵や力となる。またその経験を通じ、本学建学の精神における、さらなる理解の向上や浸透を図る。	①宗教情操教育の実践、環境整備、仏教行事等を通じ、効果を高める。 ②関連授業の充実と仏教行事の学生参加向上。 ③講師の研鑽及び学外PRの向上。 ④実践成果の検証と改善。	企画・立案・実践 実践成果の検証・改善
2	学生募集と大学運営	募集定数の確保・充実は、大学運営・教育活動の維持継続基盤であると共に、大学の魅力の指標である。１８歳人口の減少や受験生の短大離れなど、募集環境は依然として厳しいものがあり、ＩＣＴの発展など、多様かつ素早い社会変化に即した広報戦略を具体化し、本学の魅力を積極的に打ち出す姿勢が、これまで以上に求められている。	①入試広報活動全般の見直し・改善を通じた本学認知度の向上。 ②教職員と在学生とのコラボレーションを基点とした、在学生主体の募集活動展開。 ③高大教育交流推進。 ④研究活動活性化による教員の資質・能力向上。 ⑤「学力の三要素」による学生の資質・能力向上。 ⑥実践成果の検証と改善。	企画・立案・実践 実践成果の検証・改善
3	時代・社会変化に即応した教育システムの改革・改善	「教学マネジメント指針」（令和２年１月２２日中央教育審議会大学分科会）を参考にした教学マネジメントの推進は、現在、高等教育機関が取り組むべき重要な課題である。その中で、教育の理念･目的･目標等や「３つのポリシー（AP・CP・DP）」の不断の見直し、それらに基づく教育の実施、学修成果の具体的把握・評価方法、効果的な情報提供方法の検討・改善等にも継続的に取り組む。	①３つのポリシーの見直し、それらに基づく教育実践。 ②カリキュラム、シラバス等改善、それらに基づく授業展開。 ③「アセスメント・ポリシー」再検討。 ④学修成果可視化、学生への情報提供推進。 ⑤ＩＣＴ教育推進。 ⑥ＩＲ推進。 ⑦実践成果の検証と改善。	企画・立案・実践 実践成果の検証・改善

1　全学的中長期目標

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
4	エンロールメント・マネジメントの促進（総合的な学生支援体制の構築）と教職員の意識改革	家庭背景、心身・発達特性、国籍、さらに変化の激しい社会情勢といった背景から、本学学生の気質や意識、ニーズも多様化している。「学生支援」の充実に努めるため、教職員が自身の資質向上に励みつつ、協力し合い、これまで以上に細やかな対応を心がけていく。	①学修環境の不断の改善。 ②学修支援充実。 ③生活支援充実。 ④キャリア支援充実。 ⑤教職員の資質向上（FD・SD）。 ⑥部署間情報共有・連携等（教職協働）推進。 ⑦学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築。 ⑧実践成果の検証と改善。	企画・立案・実践 実践成果の検証・改善
5	ニーズに対応した、地域連携の充実	地域に根差した公的高等教育機関として、これまでの伝統と実績に根差しながら、よりその地位向上に努めることは本学の責務である。本学地域連携施設（仏教教育研究センター・育児文化研究センター・キャリア研究センター・介護福祉研究センター）における連携事業、公開講座、地域包括協定に基づく事業の継続や拡充等に努める。	①地域連携施設の事業継続・拡充。 ②公開講座の充実。 ③地域包括協定に基づく事業展開。 ④その他ニーズに対応した地域連携への取り組み。 ⑤実践成果の検証と改善。	企画・立案・実践 実践成果の検証・改善
6	周辺環境（山林）の有効活用	本学周辺の山林を有効に利用・ 開発していくことは、特色ある教育を実現し、本学の魅力を発信していく上でも重要である。また世界的なＳＤＧｓの広がりの中、自然や環境への関心も高まっている。本学での学びや体験、教育実践、事業等を通じ、持続可能な社会の実現に向け、本学学生・教職員における意識・行動の変容にも努めたい。	①短大周辺の山林の整備推進。 ②自然を活用した教育プログラムの検討・実践。 ③自然体験を通じた周辺地域・諸関係機関との連携事業。 ④実践成果の検証と改善。	企画・立案・実践 実践成果の検証・改善

短期大学（子ども学科）

1　教育

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	学科DP（学科別学修成果）の見直し	本学では、平成３０（２０１８）年度に、３つのポリシー（ＡＰ・ＣＰ・ＤＰ）の一体化を図るため改定をおこない施行しており、学科ＤＰに基づく教育内容の充実が求められている。同時に、学修成果実態に基づく学科ＤＰおよび教育内容の見直し等、ＰＤＣＡサイクルへの取り組みを推進する。	①「シラバス内容」「カリキュラムマップ」「授業科目成績（ＧＰＡ含）」「ＤＰルーブリック」等の指標を用いた、学修成果実態と学科ＤＰとの関連性・整合性の検討。 ②学習（学修）成果実態に応じた学科ＤＰの見直し、教育内容改善、必要に応じた学科ＤＰ改定。	学修成果実態と学科DPとの関連検討（効果検証） 学習成果実態・学科DPに基づく教育内容の改善 学科DPの見直しと必要に応じた改定
2	キャリアイメージの明確化	現行の４期（入門期、変身期、充実期、総仕上げ期）それぞれにおいて期待されている成長や学びの内容をわかりやすい表現で修正・提示。学生は各期において提示されたイメージと自己を比較検討することで、保育者としての具体的なキャリアイメージの明確化を図る。	①学科ＤＰ、授業内容等に基づく、各期における学生の学びや経験内容の検討（整理と計画）。 ②ルーブリック策定後、各期における学修成果、課題、改善事項等、学生による自己評価の実施。 ③学修成果状況に応じた個別的指導、キャリア支援等の推進。	各期のイメージの検討、策定 ルーブリックの検討、策定 各教員による評価と学生による自己分析を通した指導及び支援 イメージとルーブリックの改善妥当性の評価等
3	特色ある保育者養成教育の構築	地域に根差し、これからの時代に求められる保育者を養成し、本学科ならではの特色ある教育の構築を目指す。	①カリキュラムの検討と構築（選択科目、幼免・保育士以外の取得資格の見直し等）。 ②学科ＤＰや教育目的に沿った科目・教育内容の検討、構築と実施（自然保育や「おやこひろば」を活用した内容等）。 ③新カリキュラムの実施（令和５年度～）。 ※上記①・②については、学科内検討グループを立ち上げ、検討・準備する。	カリキュラム検討・構築 令和５年度生から適用、実施 見直し・改善

短期大学（子ども学科）

2　研究

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	教員の専門性を生かした研究実績の向上	現在、科研費等の外部資金調達による研究は、大学研究力向上の重要な課題であり、本学科としても、積極的に取組の推進を図る。	①科研費等外部資金獲得に向けたセミナーを実施、ノウハウの共有化。 ②学科教員の専門分野（「子育て支援」、「自然保育」、「保育者養成」等）共同研究プロジェクトチームの編成、研究計画の検討。 ③科研費等の応募件数や獲得実績の向上。 ④研究成果発表の推進（学会、研究会、刊行物、大学ＨＰ等）。	外部資金獲得セミナー実施 プロジェクトチーム編成・研究計画 外部研究資金獲得に向け、各チームエントリー 研究成果公表（学会・研究会・刊行物、大学ＨＰ等）

3　社会連携・社会貢献

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	卒業生との学び合いの機会の促進	卒業生とのつながりを維持・発展させていくことは、次世代の保育者を育て、地域に送り出していくうえで必要で有用なことである。卒業生が集う機会を短大にて提供することで、同級生や上下級生、教員との互恵的な関係構築や学び合いの促進を図る。このような機会は本学にとって、現場保育者への学術的・専門的知識・技術・技能の提供を目的とした講座開設に向けてのニーズ把握にも繋がる。	①大学祭等におけるホームカミングデイ（仮称）の企画、実施、改善、定着化。 ②保育専門講座の企画、実施、改善、定着化。	内容と方法の検討 実施体制整備 実施と改善 定着

4　その他

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	教員の業務見直し・改善	教育、研究、校務、地域貢献が大学教員職務の柱である。各々は本学の使命を認識し、教員としてバランスよく果たしていくこと、労働者として業務遂行できる範囲であることにより成果が得られるものでなければならないが、現況としては拡大する業務に対応するのみであるため、業務の見直し・改善を定期的に行い教員及び労働者として健全な職務遂行を目指す。	①年度末や学科協議会での意見交換、学科長による聴取等による現状把握。 ②業務スリム化や見直し等に関する学科内検討、対応の推進。 ③関係部署、大学への検討事項や要望の提案。	業務の見直しと改善

短期大学（キャリア育成学科・オフィスワークコース）

1　教育

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	カリキュラム改訂の推進	①地域を活性化し、高校生にとって魅力的な教育内容となるようにカリキュラムの編成を行う。 ②改訂カリキュラムの実施により、オフィスワークコースの教育力の向上に努める。 ③学習成果を点検し、必要に応じて改訂を行う。	①科目の設置及び廃止、新たに導入する検定・資格の検討。 ②改訂カリキュラムの実施。 ③成果の点検・評価及びカリキュラム一部改訂の検討。	カリキュラム検討 改訂カリキュラムの実施 成果の点検・評価 一部改訂検討
2	各種検定試験合格者の増加	①本学での学びを卒業後実践できるスキルに繋げ、かつオフィスワークコースの魅力を地域に向けて発信するため、支援対象資格を追加する。 ②授業や特別講座を実施し、学生の資格支援を行う。 ③資格取得状況を点検し、支援体制の拡充及び支援対象資格の変更を行う。	①支援対象資格の見直し。 ②授業での支援、特別講座の実施。 ③資格取得状況の点検、支援体制及び支援対象資格の再検討。	支援資格の再検討 資格取得状況の点検・支援体制の改善 授業での支援、特別講座の実施 再検討
3	就職活動への意識向上	①就職講座への参加率の向上に努める。 ②就職講座の内容について、他の授業科目との区別を意識して見直しを図る。 ③公務員試験対策を念頭に、筆記試験対策のための授業科目を開講する。	①就職講座の単位化の検討。 ②就職講座内容の見直し。 ③筆記試験対策科目の検討。	単位化検討 就職講座内容見直し 新たな就職講座の実施 筆記試験対策検討 公務員試験・筆記試験対策実施 成果の点検評価

短期大学（キャリア育成学科・オフィスワークコース）

2　研究

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度 / 令和５年度 / 令和６年度 / 令和７年度 / 令和８年度
1	コース教員の研究力向上	①教育と研究は高等教育機関の両輪であることを認識し、教育に資する研究活動を実施する。 ②研究活動推進のため教員間の協力体制の整備に努める。	①コース教員の紀要論文等、執筆件数の向上。 ②コース会議等での研究活動に関する情報交換。	コース教員による研究活動・成果向上 研究成果の点検・評価 研究活動の情報交換

3　社会連携・社会貢献

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度 / 令和５年度 / 令和６年度 / 令和７年度 / 令和８年度
1	授業と連動した地域貢献の推進	①地域を活性化させるための方法論と、地域貢献を実践的に行う科目を設置する。 ②学修成果を可視化できるよう、ルーブリック等の評価基準を策定する。	①新科目の内容や実施体制の検討。 ②地域貢献活動の学修成果ルーブリックの策定および点検・評価等の実施。	科目新設検討 地域貢献のための授業実施 評価基準検討 成果の点検・評価 一部修正検討

短期大学（キャリア育成学科・介護福祉コース）

1　教育

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度／令和５年度／令和６年度／令和７年度／令和８年度
1	介護福祉士合格率の向上	「介護福祉士」国家試験の完全義務化は先送りになっているものの、資格合格のための教育・指導充実は、養成機関としての責務である。国家試験模擬試験や教育指導により、学生の合格に向けた意識づけを早期に高めていく取り組みを行う。	①国家試験模擬試験の積極的活用。 ②「介護福祉演習Ⅰ・Ⅱ」の充実。 ③合格率等に基づく効果検証や次年度以降の改善・検討。	国家試験模擬試験の積極的活用 「介護福祉演習Ⅰ・Ⅱ」の充実 効果検証と次年度の改善・検討
2	介護実習評価の充実	本コースでは、介護実習に関するルーブリック評価表の導入がなされたが、指導者評価と学生自己評価間のギャップ、特に学生における自己評価の（実態以上の）高さが指摘された。評価指標としての精度を高める上で、学生における評価項目の理解をさらに深めることが重要であり、かつ、評価結果に関して、今後の学生の学びや教育指導への有効活用に努める。	①学生におけるルーブリック評価項目の理解促進のための説明・指導。 ②ルーブリック評価（学生・実習先）の集計・分析。 ③学生における、自己を客観的に捉える視点の醸成による強み・弱みの把握。 ④上記に基づく個別指導の充実。	ルーブリック評価項目理解促進のための説明・指導 ルーブリック評価（学生・実習先）の集計・分析 学生における自己の強み・弱みの把握等、客観的な自己評価視点の醸成 ルーブリック評価結果（学生・実習先）に基づく個別指導の充実

2　研究

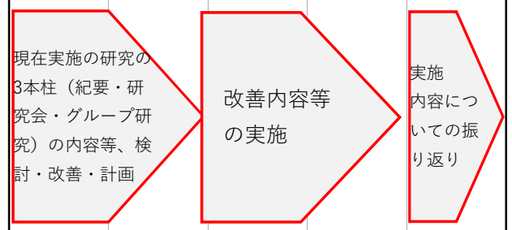
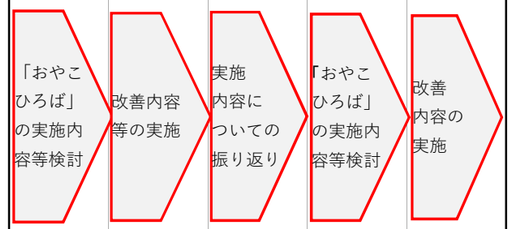
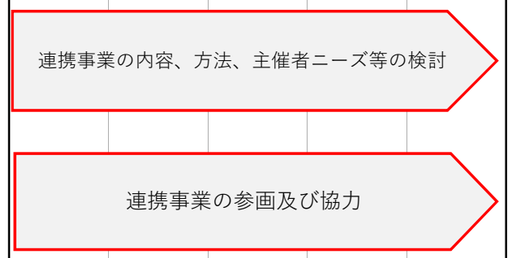
項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度／令和５年度／令和６年度／令和７年度／令和８年度
1	コース教員の研究力向上	教育と研究は高等教育機関の両輪であることを認識し、教育に資する研究活動を実施する。また、研究活動推進のため教員間の協力体制を整備する。	①研究課題（グループ研究等）・方法等の検討。 ②コース教員による研究実践・公表。	研究課題・方法等の検討 研究実践・公表

短期大学（地域連携センター）

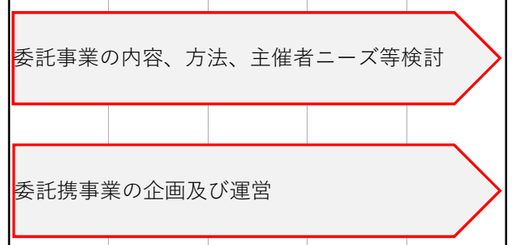
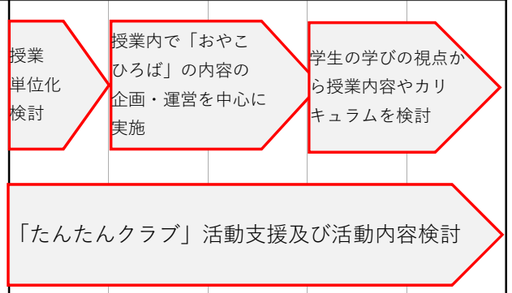
1　仏教教育研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	地域連携の推進	本センターが、地域の仏教教育および研究の拠点として貢献できるよう、地域連携事業を維持・推進に努める。	①仏教基礎講座の実施 ②仏教専門講座の実施 ③仏教公開講座の実施	仏教基礎講座の実施 仏教専門講座の実施 仏教公開講座の実施 各講座の検証と改善
2	特色ある研究の推進	真宗高田派本山があり、真宗文化ならびに仏教文化を継承する地であるという本学の地域特性を踏まえ、特色ある研究を推進することで地域連携講座にも繋げる。	①真宗文化ならびに仏教文化の研究 ②地域連携講座の実施	真宗文化ならびに仏教文化の研究 研究を活かした地域連携講座の実施 研究内容の検証と改善
3	寄贈図書の整理	智恵光院・勧学院より寄贈され、本センターに所蔵されている和綴図書の整理とデータベース化を推進する。	①寄贈図書の整理とデータベース化	寄贈図書の整理・データベース化 寄贈図書の整理状況についての検証と改善

2　育児文化研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	研究員の研究活動充実のための支援	学内外の研究員が、子育て支援活動の充実及び育児文化に関する研究活動へ取り組む機会や話題の提供に努める。	①「育児文化研究紀要」の検討・改善。 ②定例研究会の検討・改善・推進。 ③グループ研究活動の検討・改善・推進。	
2	津市「ひろば」のネットワーク構築拠点となる開放事業の運営と活動	地域子育て支援事業として、子育て支援ひろばの実施を中心に子育て支援を必要としている家庭への支援に取り組む。また子育て支援ひろば「おやこひろば　たかたん」の実施場所、回数、内容及び参加対象者等の見直し、検討も行い、事業改善にも継続的に取り組む。	①「おやこひろば　たかたん」の実施内容等の検討。 ②子育て講座、子育て相談の実施。 ③子育て情報の発信。	
3	地域子育て支援団体との連携活動の充実	これまで続けてきた三重県内の地域子育て支援事業への運営委員会や事業に参加・協力する。また事業改善に向け、内容、方法及び主催者ニーズ等についても検討を重ねる。	①連携事業の内容、方法及び主催者ニーズ等の検討。 ②「みえ次世代育成応援ネットワーク事業」運営委員参画・事業参加。 ③「みえこどもの城連携協定」事業協力。	

2　育児文化研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
4	津市委託事業の展開	津市より委託されている事業への企画や運営を継続して行う。 また事業改善に向け、内容、方法及び主催者ニーズ等についても検討を重ねる。	①委託事業の内容、方法、主催者ニーズ等の検討。 ②津市委託事業「子育てママのホッとひろば事業」企画・運営。	
5	学生にける地域子育て事業の理解向上や参加支援	学生が子育て事業の意味と必要性を理解し、自ら地域の活動に参加できる機会を提供していく。その上で「おやこひろば」実践内容を中心とした授業単位化（選択科目）の検討や、子育て支援ひろば応援学内サークル「たんたんクラブ」の活動支援及び活動内容の検討にも取り組む。	①授業単位化検討、実施及び改善。 ②「たんたんクラブ」の活動支援及び活動内容の検討。 ③学生による「おやこひろばたかたん」の企画・運営の推進。	

3　キャリア研究センター

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	地域連携機能の改善・充実及び連携の拡充	①地域のニーズに対応し地域課題の解決に資することができるよう機能及び体制の改善・充実を図る。 ②取り組む事業の目的、目標、工程などを明確にし、評価や改善を継続的に努める。	①地域連携に関わる研究員拡大、また活動に必要な連携機関の拡充、事務局設置などバックアップ体制の強化。 ②連携事業の目的、目標及び工程等の明確化と評価・改善。	地域連携担当研究員拡大 活動に必要な連携機関の拡充 バックアップ体制の強化 目的、目標、工程等の明確化 評価・改善活動のサイクル化
2	研究活動の活性化、研究成果の普及	①研究員間の情報交換・意見交換が活発となる環境を整え、研究活動の活性化を図る。 ②研究成果、研究員の知見を普及するとともに、地域への還元を図る。	①新しい形での研究会を開催し、研究員間の情報・意見交換を行う場を設定、グループ研究等。 ②センター紀要への投稿促進、セミナー開催等を通じた研究成果・知見の地域還元。	新しい形式での研究会・意見交換会等の開催 研究会の評価・見直し センター紀要への投稿促進 セミナー、イベント開催等による知見の普及・地域還元
3	地域を支える人材の育成	①卒業生、進路先事業者等へのリカレント教育を行うことにより、社会情勢や環境の変化に対応できる人材の育成に努める。 ②地域課題をテーマとしたPBLを行うフィールドを提供するなど、学生の自律的で実践的な学びの支援を行う。	①卒業生・進路先等リカレント教育充実、講座ニーズ調査、受講者案内連絡先の収集。 ②学生の実践的な学びにつながるテーマ設定（連携先ニーズも踏まえて）、教員の指導スキル向上、経験等の情報交換。	リカレント教育の実施、充実 講座ニーズ調査 リカレント教育の評価・見直し 卒業生連絡先の収集（セミナー等案内用） 学生への実践的な学びの場の提供 ＰＢＬなどの指導スキルの向上、経験などの情報交換

4　介護福祉研究センター

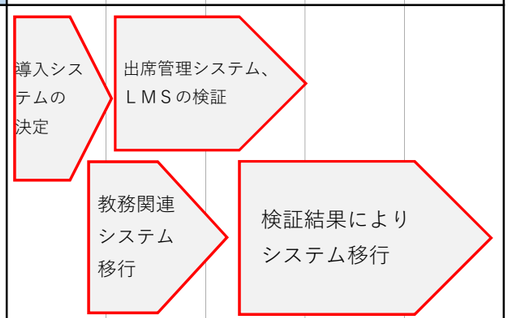
項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	介護福祉研究センター運営	現在当センターでは、卒業生を含む研究員50名を超え、規模も拡大しており、安定的なセンター運営を図る上で、マンパワー確保、業務スリム化の検討や体制整備に向けた検討に継続的に取り組むと同時に、事業充実に向けた新規研究員の確保に取り組む。	①運営委員の確保と業務のスリム化検討。 ②事務職員配置等、体制整備の検討。 ③新規研究員の確保。	運営委員の確保と業務スリム化検討 事務職員配置検討等、体制整備の検討 新規研究員の確保
2	「高田短期大学介護・福祉研究」の充実	本センター研究紀要の内容・投稿数を充実させ、地域に有益な研究知見の提供向上に努める。その上で内容充実に向けた検討はもとより、投稿数向上のため本学卒業生研究員にも積極的な論文等の投稿への継続した働きかけを行う。	①内容充実に向けた検討。 ②本学卒業生研究員への論文等投稿への働きかけ。	内容充実に向けた検討 卒業生研究員への投稿働きかけ
3	地域貢献事業の充実	現在、コロナ禍等の事情により中断している「白子公民館高齢者と学生の交流サロン」「介護見学バスツアー」に関し、再開や他地域でのサロン実施等に向けた検討及び準備を模索する。また「介護福祉セミナー」については継続的に開催し、一般・介護福祉関係者に学ぶ機会の提供を行う。そのほか、地元地域関係機関（一身田桜町地区、全国障害者問題研究会三重支部、三重県文化会館）との事業連携等を通じ、関係性をさらに強固なものになるよう努める。	①サロン再開及び拡大（他地域）、バスツアー再開に向けた準備・検討。 ②サロン及びバスツアー再開と学生ボランティアの充実。 ③介護福祉セミナー事業。 ④地元関係機関との連携。	サロン再開・拡大、バスツアー再開に向けた準備・検討 サロン・バスツアー再開、学生ボランティアの充実 交流サロンの発展 「介護福祉セミナー」開催（年１回） 地元関係機関との連携
4	介護啓発事業への協力	２０２０年度から本学が行っている小中学生向けの「介護作文コンクール」への運営協力を継続的に行い、県内児童生徒への介護の普及、理解向上に貢献する。そのため、作品応募数増加（目標応募数１５００、参加校１００校）、新聞・テレビ等メディアでの紹介等に積極的に取組みを進める。そのほか表彰式、優秀作品朗読、文集配布等の継続的な実施を行う。	①作品応募数の増加への働きかけ。 ②新聞・テレビ等メディアへの働きかけ。 ③表彰式、優秀作文朗読、文集配布。	作品応募数の増加への働きかけ メディアへの働きかけ 表彰式、優秀作品朗読、文集配布

短期大学（総務・教務・学生・入試広報・図書館）

1　総務課

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	物的資源の適切な維持管理の実施	現状、施設設備の維持管理は適切に行われているが、老朽化・陳腐化による改修・修繕については今後とも対策を必要とするため、限られた財的資源の中で、不断の見直しを行い、予算の精査と必要性に応じた改修・修繕に努める。	①物的資源の適切な維持管理（改修・修繕等含む） ②年次計画と予算の検討及び執行	物的資源の適切な維持管理 年次計画予算執行　年次計画予算執行　年次計画予算執行　年次計画予算執行　年次計画予算執行
2	FD・SD活動の活性化	自己点検・評価委員会を中心として、定期的なFD・SD研修会（コンプライアンス及びハラスメント研修等）を計画・立案し、全教職員の資質向上を図る。同時に実施結果の検証等、成果の点検・評価等を通じ改善・充実にも努める。	①定期的なFD・SD活動の企画立案・実施。 ②実施結果の検証、課題の抽出、成果の点検・評価。	ＦＤ・ＳＤ企画立案・実施 実施結果の検証、課題抽出、成果点検・評価
3	令和１０年度認証評価に向けた取り組み	自己点検・評価委員会を中心とし「令和３年度認証評価」における指摘事項を整理し、改善を図ると同時に令和１０年度認証評価に向けた体制を整備する。	①「令和３年度認証評価」指摘事項の計画的改善。 ②令和１０年度認証評価に向けた自己点検・評価活動の活性化及び準備。	指摘事項の改善　改善計画に沿った実践 報告書作成準備 自己点検・評価活動

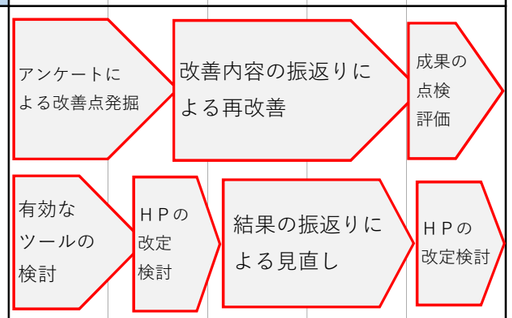
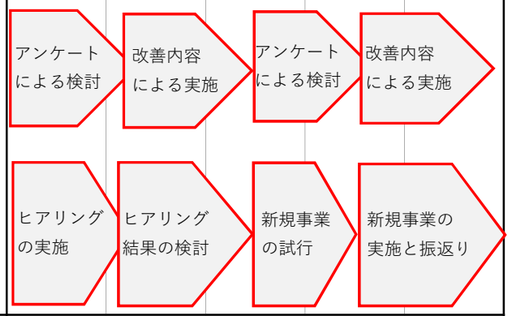
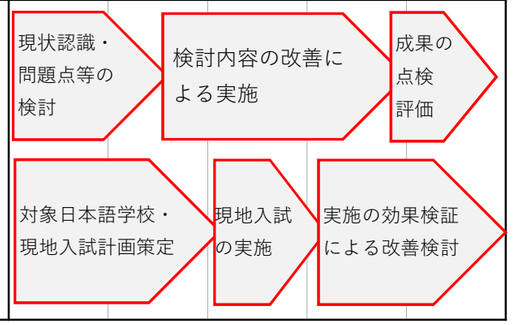
2　教務課

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	教務システムのリプレース	基本設計から１５年以上経過した教務システムを最新のものに置き換え、教務の基幹業務について精度とユーザーの利便性を向上させる。	①教務システム、キャリア支援システム、学生ポータルサイト、出席管理システム、ＬＭＳの段階的見直し。 ②新たなシステム構築による各業務連携の強化。	
2	授業環境整備	学内でプロジェクターとスクリーンを備えた教室が特別教室を含め７教室に留まるなど、授業設備の不足について複数年かけ解消する。具体的には年度ごとに数を決め、プロジェクター、スクリーン、ＤＶＤ、ブルーレイ、ポータブルアンプなど授業設備を購入し、汎用的に利用できる教室の拡充に努める。	①計画的な設備購入及び設置。 ②教室環境のチェック（購入計画含む）。	

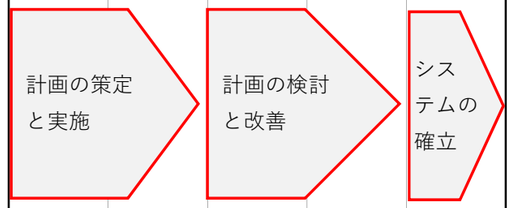
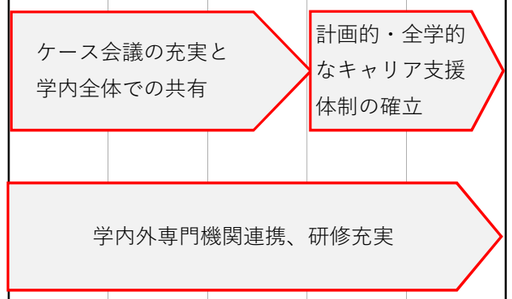
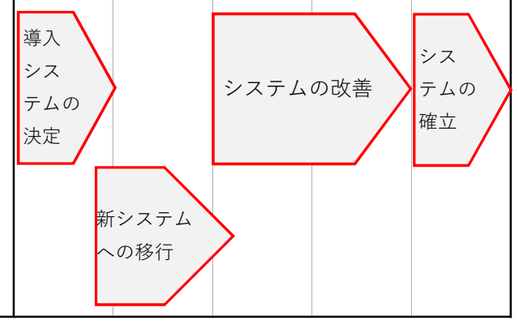
3　学生課

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ（令和４年度／令和５年度／令和６年度／令和７年度／令和８年度）
1	キャンパスライフ充実	明るい挨拶や礼儀・マナーを大切にする中で、学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築を目指す。また、学生の自主的かつ主体的活動ができる環境作りを行うため、 学生自治会を中心とした学内行事、及びクラブ・サークル活動の更なる活発化に努める。	①自治会主催行事、サークル活動活性化等に関する検討（課題抽出、行動計画、実施、点検評価等）。 ②その他の年次計画に基づく活動および総括。	自治会主催行事等の点検・課題抽出 → 行動計画の策定 → 新しい行動計画に沿った実践、成果の点検評価 年次計画に基づく活動および総括
2	奨学金等の経済的支援充実	在学生に対し、高等教育修学支援制度、日本学生支援機構奨学金制度を始めとする入学後の奨学金制度を積極的に紹介するとともに、就職分野別の多様な奨学金についても情報提供と利用支援を行う。また入試広報課との連携を深め、受験生に対しても、種々の奨学金制度の周知徹底にも努める。	①奨学金情報提供に関する検討と改善。 ②国・自治体における奨学金制度動向に関する調査・研究。	課題抽出、調査･研究 → 奨学金の見直しと計画 → 支援策の提起、実施 → 成果の点検評価 → 課題抽出、調査･研究 国・自治体の制度の調査、研究
3	学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮充実	学生の心身の健康管理やメンタルケア、カウンセリングの体制を整え、学習や学生生活が充実するような組織的支援に努める。定期健康診断後の保健指導の充実を図り、要配慮・支援学生へのトータルな支援体制構築に向け取り組む。	①トータルな学生支援充実に向けた業務の検討・実施・改善。 ②学生支援に関する研修会等参加による職員の資質や意識の向上。	課題抽出 → 実施評価 → 実施評価 → 実施評価 → 実施評価 研修会等への参加・啓蒙活動
4	外国人留学生支援の充実	本学ではキャリア育成学科介護福祉コースを中心に留学生が在籍しており、彼らの学びや学生生活の充実に向けて、日本で暮らす上での悩みの共有や解決支援、奨学金・学費減免制度等の情報提供、日本語能力向上や授業・試験等における配慮等に対する取り組みを推進する。	①生活・学習サポート体制の充実に向けた支援内容の検討・実施・改善。 ②国の政策に基づく点検、調査・研究に努め、職員における意識・能力の向上。	支援の課題抽出 → 支援策の提起、実施 → 成果の点検・評価 国の政策に基づく点検、調査・研究

4　入試広報課

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	学生募集のあり方の再検討と募集定員の確保	①少子化による受験生の激減に対する戦略の検討。 ②短期大学離れの傾向に伴い魅力と活気のある大学運営とその発信についての取り組みを推進する。	①オープンキャンパスの実施時期、回数、内容等の検討及び改善。 ②SNS等の活用、高校生に直接接触できる機会確保等、効果的ツールや手法の検討及び改善。	
2	高大連携の推進	①高大教育交流連携校との模擬授業等の充実を図る。 ②高校現場で求められる新たな連携事業への取り組みを推進する。	①模擬授業等内容の検討・改善。 ②新規事業実施に向けた現場ニーズのヒアリング実施。	
3	多様な学生の受入強化	①社会人入試の強化へ取り組む。 ②外国人留学生入試の充実を図る。	①委託訓練入試・一般社会人入試の応募者増強策について検討・実施・改善。 ②県内外日本語学校との連携強化、中国・ベトナム等現地入試の実施。	

5　キャリア支援センター

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	公務員試験合格率向上	県内市町の保育教育職の採用者数が減少傾向にあること、採用試験が早期化していることから、以前よりも合格が困難な傾向になってきており、公務員希望の学生が早期から、かつ最後まであきらめることなく学習に取り組むことができるよう、本学の学生に合った計画的な支援を行う。	早期かつ継続的な公務員講座等の計画・実施・改善。	
2	多様な学生に応じた個別的キャリア支援推進	多様な学生が入学していることから、一人ひとりの特性や適性、進路希望を踏まえた進路実現を目指す。その実現のため、学生相談室、学生支援連絡会といった学内だけでなく、学外の専門機関とも連携しながら、学生一人ひとりに応じた包括的支援に努める。	①ケース会議や学内情報共有の充実・改善、全学的支援体制の確立。 ②学内外専門機関との連携、キャリア支援及び学生支援に関する研修の充実。	
3	新たなキャリア支援システムの構築	新しい教務システム導入を機に、キャリア支援に係る情報蓄積・活用可能な新たなシステムを構築する。例えば、求人情報検索や就職試験報告等での利便性の向上を図っていく。さらにセンタースタッフと教員協働による支援体制の強化を図る。	①新たな情報管理・活用システムの構築、見直し、改善。 ②教職協働による支援体制づくりに関する検討、改善。	

6　図書館

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	学修環境としての図書館改善	全学的及び学科・コースの到達目標実現に必要な環境（資料面と施設面）を整備し、ソフト面でもそれらを利用しやすくする仕組みの整備を図る。	①建学の精神の涵養、専門分野の学修に関する資料の整備（質・量）。 ②学生ニーズに対応した資料、一般教養知識獲得に役立つ資料の整備。 ③安全整備、収蔵環境改善。 ④利用促進につながるサービス提供方法の見直し。 ⑤著作権リテラシーの啓発。	改善点や改善方法の検討 → 改善の実践 → 点検・継続
2	学生における読書推進と図書館活動参加促進	学生の読書推進に努めると共に、収蔵図書選定や図書館だより記事執筆等の図書館活動において、図書館メイトだけでなく、全ての学生が得意な分野で活躍できるような機会を増やす。	①読書推進企画・啓発。 ②学生による自主的な活動機会の拡充。	方法を検討 → 実践 → 点検・継続
3	地域・社会連携の拡充	地域、社会一般に役立つ事業の一環として、公開講座実施継続や機関リポジトリの準備に取り組む。加えて、報道メディアやＷＥＢ媒体等を活用した各事業の広報推進を強化する。	①公開講座実施継続、機関リポジトリ準備。 ②メディア報道依頼継続、ＷＥＢ広報の推進。	事業の抽出 → 公開講座実施継続 機関リポジトリ等の準備・広報展開 → 点検・継続

高田中学校・高等学校

1　教育

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	＜宗教的情操教育の推進＞ 建学の精神である仏教・親鸞聖人の教えを通して、智慧と慈悲を兼ね備えた人格形成を目指す。	週１時間の授業において豊かな宗教的情操を養うと共に、生命の尊厳性に目覚め、人権を尊重し、社会生活におけるマナーの遵守について考えるとともに、本山を参詣し講話を拝聴することによって、伝統を重んじ継承することの重要性の認識を図る。	①仏教の思想を学習 ・人生観、人間観、社会観を深める。 ②歴史的建造物の価値を認識 ・高田本山専修寺の建造物、伽藍や境内の環境を拝観し、国宝及び重要文化財の価値を思考する。	仏教思想や親鸞思想を学び、現代社会の課題と向き合う。 自己の内面を見つめ、人生の指針に役立たせる。
2	＜学習指導　６年コース＞ 学力の充実・錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の育成を目指し、自主自律の精神をもって夢の実現を目標とする。	＜６年コース＞ 反復学習や発展学習を多く導入するとともに、より総合的な学びを目指す。	＜６年コース＞ ①中学１～２年次は基礎学力の充実を図る。 ②中学３年～高校４年次は社会を意識した発展的な探究活動を充実させる。 ③高校５～６年次は自己の夢の実現に向けて、より深い学習を行う。	中学時の基礎学力の充実を図るため、丁寧な反復学習・個別指導を加える。 校外機関と連携し、探究活動を通じグローバルな視点での発想を促す。 世界で活躍できる人材となることを意識づける。
	＜学習指導　３年コース＞ ３カ年の学びを通して「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を培い、自らの将来に希望と展望をもって計画的に取り組む力を養い、自己の人生を創造し続ける力を育成する。	＜３年コース＞ 実社会や実生活に関連した課題などを通じて、学びへの興味と努力し続ける意志を持ち、短期目標や長期目標を達成するための具体的な計画を立てて学習に取り組むとともに、自律学習の振り返りを定期的に行うことで自身の学習の現状を把握し、軌道修正を行いつつ自己の目標実現に向けて継続的に取り組む。	＜３年コース＞ ①学期始めに、各自で学習における目標を立て、その目標を達成するための具体的な計画を立てる。 ②毎週末、一週間の自律学習の振り返りを行い、次の週の自律学習に反省点を生かす。	指導の在り方を追究し、必要な学習環境を設定していく。 学習評価を通して、指導方法を見直し改善していく。
3	＜進路指導・キャリア教育＞ 生徒自身が主体的に進路希望を設定し、その実現に向けた指導を行う。	自らがどのような形で社会の一員として貢献できるのか、そのためには広く社会を知ることが必要となり、その一助として、上級学校の学びを通して、自らの関心がある分野を探し出し、求められる能力等を如何に開発すべきなのかを日々の学習に落とし込み、学習指導等を継続的に行う。	①上級学校の分野別ガイダンスを行い、視野の拡大を図る。 ②卒業生や社会人との交流を図り、興味関心のある分野の理解を深める。 ③模擬試験等により客観的な学習到達度を確認させ、適切な学習指導を行い希望進路の実現を図る。	各種ガイダンスの実施 高大接続事業を通した視野拡大 学力定着度の客観的判断と理解 進路実現のために必要とされる学力・技能への助言等

1　教育

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
4	＜国際理解教育＞ 英語能力の向上及びグローバル社会に対応する知識の滋養。	授業及び課外活動において英語能力の向上を目指し、またグローバル社会に対応する知識や教養の滋養に取り組む。 英語資格認定試験として、実用英語技能検定やGTECの受験推進、姉妹校との交換留学制度、海外語学研修などへの積極的参加を促す。	①英語能力向上施策の継続。 ・実用英語技能検定 ・GTECの受験推奨 ②イングリッシュキャンプやエンパワーメントプログラムの積極的活用。 ③オーストラリア交換留学及びイギリス語学研修への参加推奨。	英語能力向上施策の継続 イングリッシュキャンプ等の校内研修プログラムの活用 海外プログラムへの参加推奨
5	＜教育支援＞ 不登校等生徒への学習保証。	家庭環境やいじめ等の様々な理由での不登校気味の生徒への対応が課題であり、原級留置者、転校退学者の抑止に努める。	①別室登校用の教室を設ける。 ②いじめ差別等の根絶を目指す。 ③家庭経済的支援として入学金の補助。 ④定期的に教育支援会議を実施し、情報共有を行う。	心のケア ＳＣ・養護教諭による定期的な面談 家庭訪問 保護者との情報共有
6	＜人権教育の推進＞ 日々の教育活動全体を通じた人権教育の確立。	人権教育推進担当の教員のみが担うのではなく、日々生徒と接する全ての教員が教員本来の職務である各教科の授業をはじめ、ＨＲなどの教育活動全ての場面において人権教育を実践していくものであり、全ての教員が人権教育の担い手であるという意識の確立を図る。	①教育活動・学級運営 ・中学校３カ年（６年コースのみ）・高校３カ年（３・６コース共通）を通じた本校独自の人権教育計画の策定。 ・人権教育推進委員会による学年人権ＬＨＲの企画・運営。 ②授業実践 ・「人権に関する授業」の立案・実施・見学を、校内の研究授業から校外へも広げる。	計画見直し・運用 ３カ年の人権教育計画に基づき実行 人権教育計画 人権教育推進委員会の運用 人権教育推進委員会の見直し 校内研究授業としての「人権に関する授業」 校外へも展開
7	＜ＩＣＴ教育＞ ＩＣＴ教育機器の充実と拡充、及び機器を活用した教育活動の推進。	近年、導入と整備が進められてきたＩＣＴ教育機器とＷｉ－Ｆｉ環境を校内全体に整えると共に、これらを活用した教育の実践に向けて教員の指導力を高め、学力の向上を図る。	①Ｗｉ－Ｆｉ環境の安定と充実。 ②プロジェクターの整備と刷新。 ③ＩＣＴ教育ツールの有効活用。 ④端末を利用した学習の推進。 ⑤オンライン授業の拡充。	高校端末導入 高校端末導入 高校端末導入 中学校端末年次導入と検討 端末導入の更新 環境の整備と、活用の推進

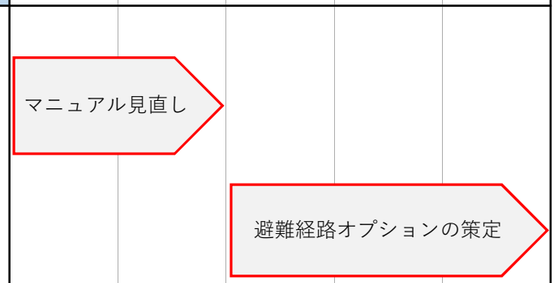
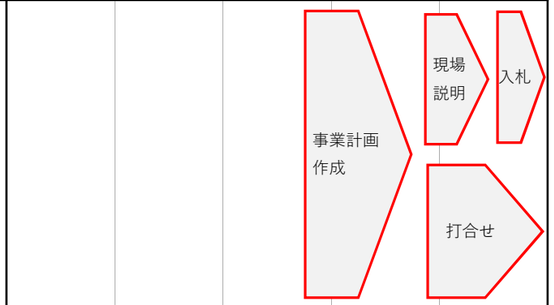
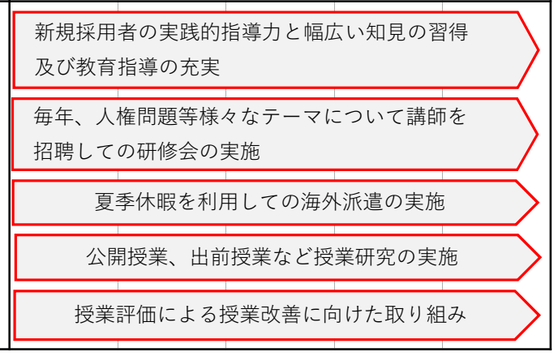
1　教育

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度 / 令和５年度 / 令和６年度 / 令和７年度 / 令和８年度
8	＜環境教育＞ 脱炭素社会の実現に向け、中・高等学校段階から二酸化炭素の大幅削減に向けた意識変容、行動変容を促す。	「脱炭素宣言」をした本県において、産官学で構成された「ミッションゼロ2050みえ推進チーム」の一員として、「次代を担う若者」が脱炭素社会実現に向け、今必要な取り組みを検討する。	①学校周辺のCO2濃度の測定。 ②緑化木のCO2貯蔵能力の測定と比較。 ③観葉植物のCO2貯蔵能力の測定と比較。 ④CO2貯蔵能力からみる森林の価値と比較。	継続的な測定・分析

2　社会連携・社会貢献

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	＜探究学習＞ 総合的な探究の時間の実地及び方針の定着。	令和４年度より週１の授業として、総合的な探究の時間を行う。令和３年度の仮実地をもとに、シラバス及び手引書通りの３年間の実地の後、検討を行い、高田高校としての探究の取り組みの確立。	①総合的な探究の時間の実施。 ・３年間の実施及び記録 ・次年度への申し送り事項の作成 ②見直し・検討。 ・年度ごとの申し送り確認・見直し ・次年度のシラバス及び手引書の手直し ・令和７年度のシラバス及び手引書の改訂の検討	毎年度　申し送り・見直しと次年度への手直し 毎年度　実地・申し送り事項の作成 シラバス検討
2	＜三重大学高大連携＞ キャリア育成の意識を高める	大学で行われている最先端の研究や学びに触れることで、知的好奇心を育て学習への継続性を育てる。さらに大学の学びや生活について理解を深め、学校や学部選択でのミスマッチを防ぐ。	①既存の高大連携事業の展開。 ・高大連携講座 ・サマーセミナー ②高大連携事業の見直し・検討。	既存の高大連携事業の展開 見直し、及び見直し後の事業展開
3	＜社会奉仕活動＞ 社会奉仕活動を実践する諸団体と協力し、支援体制を確立	三重高等学校文化連盟ボランティア部門、津北ロータリークラブ、日本赤十字社、津市社会福祉協議会、高田本山専修寺、一身田地区地域住民等と連携し、社会奉仕活動を行う。また、社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共福祉のために役に立ちたいという精神を育む。	①各団体の社会貢献活動への参加。 ②専修寺宝物及び重要文化財の保護。 ③災害支援等の募金活動を協議・検討。 ④毎月の寺内町清掃活動を実施。 ・環濠等の地域文化財を保護 ・国宝のあるまち一身田寺内町（春と秋の清掃協力） ・一身田地区地域イベント協力	諸団体と協力し事業を展開 各年度に事業計画書及び報告書を提出 高田本山専修寺宝物の保護
4	＜学びのひろば＞ 小学生の学習意欲向上と中学校への興味・関心を高める	「学びのひろば」は、小学生が中学校に興味関心を持ち、学びへの意欲を向上させること、また中学生となることへの不安解消を目的としている。地域貢献の機会として平成２２年より開催されており、今後も改善を加えつつ継続して取り組む。	①年２回、８月および２月に実施。 ②小学４・５年生対象。 ③教科別の公開講座の開講。 ④教科別のオリンピックの実施。	毎年度　実施と申し送り・改善の検討

3　その他

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
1	＜防災・危機管理＞ 南海トラフ及び大規模地震への対応。	南海トラフ地震の発生確率の上昇を受けて、避難経路・避難時の対応をより詳細に策定する。	①地震対応のマニュアルの見直し。 ②津波対応の避難経路オプションの策定。	
2	＜教育環境の整備＞ 空調（冷暖房）設備設置 第１体育館：１Ｆ更衣室等 ・２Ｆフロア 第２体育館：柔道場・剣道場 第３体育館：１Ｆフロア	近年の全国的な猛暑を受け、生徒の体育の授業、クラブ活動などの適切な学習環境の確保や市の指定避難所に登録されているため、災害時の避難者への熱中症対策として空調設備を設置する。	①関係部署・業者との打合せ及び設置工事。 ②稼働・保守整備の実施。	
	＜教育環境の整備＞ 校舎（１号館・２号館）建替工事	令和４年現在、１号館は築後４７年、２号館は築後３６年が経過しているため、生徒の安全確保及び学習環境の更なる向上を図る。さらに赤道を新築校舎で区別することにより防犯面でも向上が期待できる。	①事業計画作成。 ②現場説明。 ③入札。 ④関係部署・業者との打合せ。 ⑤工事（令和９年度以降）。 ⑥保守整備（令和９年度以降）。	
3	＜教職員研修＞ 教育環境の変化に対応できる教員の資質能力向上とスキルアップ。	教育を取り巻く環境が激変する中で、より質の高い教育を提示するために教職員の対応能力の向上を図る。	①校内初任者研修。 ②中堅職員研修。 ③校内人権教育推進研修。 ④教員海外派遣研修。 ⑤教科研修。 ⑥専門分野の外部研修。	

3　その他

項目	中長期目標		中長期プラン	
	目標	目標の説明	プラン内容	ロードマップ 令和４年度　令和５年度　令和６年度　令和７年度　令和８年度
4	＜生徒募集＞ 歴史と伝統、生き生きとした教育活動の姿を紹介するとともに、生徒育成の場とする。	伝統や実績等の情報を発信するだけにとどまらず、本校の生徒達が集団で創るポジティブな雰囲気をリアルに感じられるよう工夫に努める。これに本校生徒が関わることで教育の場としても活用し、より良いサイクルに導くことを目指す。	・スクールガイドの作成。 ・ポスター・ちらしの作成。 ・学校見学会の実施。 ・県内中学校・市が主催する入試説明会や進学説明会への参加。 ・県内中学校への訪問。 ・中学校入試説明会の実施。 ・外部機関及び塾等が主催する説明会への参加。	毎年度　改良・企画　実施・見直し 体制の見直し・改善